

こうちミュージアム ネットワーク通信

2016

VOL.

14

目次

CONTENTS

- 土佐の文化財「『溪鬼荘』が登録有形文化財に」…………… P1
- 随想「創造広場『アクランド』」…………… P2
- NEWS「明治維新 150 年にむけて」…………… P2
- 会員紹介「絵金蔵」「日本ウミガメ協議会 室戸研究基地」
「室戸ジオパーク推進協議会」「海洋堂ホビー館四万十」… P3
- 特集：2015 年 10 大ニュース
「『土佐藩主山内家墓所』の国史跡指定」
「坂本龍馬記念館で新・再発見続々」「高知市民図書館本館閉館」

- 「関勉さんから望遠鏡寄贈」「長宗我部元親飛翔之像」
「竹林寺書院国重要文化財指定」「『フクちゃん』単行本刊行」
「作家・宮尾登美子さん追悼展の開催」
「豊永郷民俗資料館オープン」
「めずらしいキリンの鳴き声」…………… P4 ~ P5
- 活動報告…………… P6
- 時の話題「周年事業」…………… P6
- 展覧会レポート「マリメッコ展」を見学して…………… P7
- 図書之窗『もっと博物館が好きっ!』…………… P7
- 会員一覧…………… P8



▲溪鬼荘 (高知県香美市)

土佐の文化財

◆「溪鬼荘」が登録有形文化財に

写真は、歌人・吉井勇が隠棲生活を送った草庵「溪鬼荘」です。平成27(2015)年に国登録有形文化財になりました。

昭和8(1933)年8月にはじめて猪野々を訪れた勇は、静かな山里の風情に惹かれ1ヶ月程滞在、翌年になって再び訪れ、ここに隠棲することを決意しました。友人・伊野部恒吉氏宅の隠居所を取り壊した際の木材をもらい受け、猪野沢温泉の敷地内に建築、昭和9(1934)年の12月に完成しました。「溪鬼荘」という名前の由来は、物部川に臨む断崖の上に建ったことから溪谷の「溪」、また、隠棲当時の勇の心境を「鬼」と表したことからといわれています。

勇は、入るとすぐの6畳の居間を「炉酒の間」、奥の4畳半の書斎兼寢室を「紫山の間」とそれぞれ名づけ、昭和12(1937)年10月までの約3年間隠棲しました。世間の喧騒から逃れ、静寂の中で己を見つめる日々や猪野々の人々との温かな交流を通じて、心の安らぎと生きることへの希望を得ることの出来た日々は、勇にとって非常に大きな意味を持ちました。

現在溪鬼荘は吉井勇記念館の敷地内に移築されており、当時の雰囲気を残す自然の中で勇の隠棲生活を再現した展示をご覧いただくことができます。

(香美市立吉井勇記念館 柳瀬美紀)

創造広場「アクトランド」



高知県香南市野市町に昨年5月グランドオープン

アクトランド
館長 **北村 精男**

の豊かさの中に有って、疲弊し置き去りにされているのが「人間の心」です。心が疲弊すれば世の中は荒廃し、未来に希望が持てなくなり、心の豊かさを、物質で取り返すことはできません。心を満たすものは「感性の豊かさ」であります。目の前に優れた芸術品があつて、科学技術の進歩が享受でき、文化が栄え、高い教養を身に付けていれば、豊かな心が蘇り、幸せを感じることができま

続いて、②世界偉人館、③ニオアフリカンギャラリー、④絵金派アートギャラリー、⑤世界モデルカー博物館、⑥世界クラシックカー博物館、⑦ボンネットバス博物館、⑧KUMA'Sコンテナギャラリー、があります。それぞれの館の個性豊かな展示物は、時代や作者が創出する、芸術性や、高い文化性、高度な技術力や感性に溢れ、現代を生きる我々に、力を与えてくれます。

○ 名前の由来

アクト(ACT)という名前は、芸術を表す(Art)、文化を表す(Culture)、技術を表す(Technology)から取ったものです。芸術に親しみ、文化を高め、科学技術を発展させることが人生必須の要素であり、ひいては社会の発展、国家の安定に通ずるものだと確信して、命名したものであります。

す。「物質の時代」から「感性の時代」へと変革する今こそ、子供たちは夢を追う成人に成長してもらいたいと願います。夢をつくるのは感性であり、感性は体験が育むものです。「危険を恐れず体験を積もう」を合言葉に、この施設が感性を高め自立自尊のできる「道場」になることを願っております。

○ 個性豊かな「8つの展示館」

①龍馬歴史館：坂本龍馬が疾風の如く駆け抜けた33年の人生の生誕から終焉までを「龍馬劇場」として再現しました。併設する「龍馬有縁資料館」には、超希少な資料として「北辰一刀流長刀兵法目録」が有ります。これは、若き日に龍馬が千葉道場に於いて修行した証拠品であり、彼が剣の達人であったことの証明でもあります。

②「無料ですべる」「自遊空間」
不思議な遊具がイッパイの「わんぱく広場」、巨大ジャングルジムのぞびえ立つ「ドキドキワンダーランド」、現代の工業を支えた機械たちの待つ「創造館」、多目的広場「レインボー広場」、貴重な古道具を展示した「Akioコレクション」、快線隊長「大五郎」の住むブルドックギャラリーなどを併設しております。「あれをするな」「これをするな」「危ないからやめておけ」と人生の出版を阻害している姿をよく目にしますが、長い人生は、危険をイッパイ乗り越えて行くことであります。コブをつくり擦り傷を覚悟で思い切り冒険をし、思い切り楽しむ、そんな道場になることを望んでおります。

○ 施設の主意

現代社会を象徴する「物質文明」

NEWS

● 明治維新150年にむけて

来る平成30(2018)年は、明治維新から数えて、ちょうど150年の節目の年にあたります。全国的にもこの機会に幕末維新の歴史や文化に関連した企画展の開催や、地域振興・観光振興を意識した様々な取り組みが計画されています。高知県でも、大政奉還150年・明治維新150年の両年にわたり、県をあげて歴史博覧会を開催することが予定されています。

さて、このような状況の中、県内の博物館施設で働く学芸員の間にも、この機会に博物館あるいは学芸員としての立場から明治維新を改めて見直してみようとする機運が盛り上がってきました。そして県内の12の施設が参加・協力する形で、「明治維新150年高知県ミュージアム連絡協議会」が組織されました。

この協議会は昨年9月に設立総会を開き、現在までに計4回の学芸員会議を開催しています。会議では、どのような事業・企画を連携して取り組んで行くか、現場の学芸員たちが熱心に議論しています。単館ではなく、複数館が連携したからこそその記念になる取り組みができるよう、現在検討を進めているところですよ。

(公益財団法人土佐内記念財団 横山和弘)

絵金蔵

絵金蔵は、幕末土佐の絵師・金蔵（通称・絵金）を紹介する施設として、平成17（2005）年2月、香南市赤岡町に開館、赤岡町に残る芝居絵を中心に取り扱っています。当館は戦前に建てられた米蔵を改築したもので、展示室は絵金祭りの夜の野外展示にならない暗闇の中で提灯を持って鑑賞する「闇と絵金」展示室や、のぞき穴から実物作品を鑑賞する「蔵の穴」展示室など、全体的にはレプリカ作品の展示が多いものの、多岐にわたる絵金の画業を楽しみながら触れられる構成になっています。

絵金生誕200年にあたる平成24（2012）年にはエアタイト展示ケースを導入し、より多くの実物作品を紹介できるように、一年に5〜6回ほどのミニ企画展示を行っています。また7月の絵金祭りには実物作品を多く紹介する特別展示や夜間開館なども行っています。今後とも地元香南市だけにとどまらずに広範囲での絵金作品やその文化の発掘・紹介に力を入れていこうと考えています。

幕末期、土佐だけで熱狂的に流行した絵金の芝居絵屏風、また「おどろおどろ」だけではない絵金の魅力を感じていただけたら嬉しいです。（絵金蔵 横田恵）



室戸ジオパーク推進協議会

室戸市全域を範囲とする室戸ジオパークは、「陸と海が会い新しい大地が誕生する最前線」です。プレートテクトニクスによって変動する大地と、そこに暮らす人々の文化を体感できます。室戸ジオパーク推進協議会は、室戸ジオパークにかかわる管理・運営、普及、研究、教育などの活動を担当しています。昨年4月にオープンした「室戸世界ジオパークセンター」は、展示による普及活動だけでなく、ガイドツアーの受付やさまざまなイベントなど、ジオパーク活動の拠点施設となっています。オープン以来、すでに10万人を超えるお客様に来ていただきました。室戸ジオパークは、昨年9月に世界ジオパークネットワークによる「再認定」を受けました。

しかし、いくつかの課題も残されました。たとえば、現在室戸には22ヶ所の「ジオサイト」がありますが、さらに増やしていくことが今後の課題です。また、昨年11月より、ジオパーク活動がユネスコの正式事業となりました。これに伴って、室戸世界ジオパークは「室戸ユネスコ世界ジオパーク（Muroto UNESCO Global Geopark）」になりました。今後、世界の室戸の魅力を発信していきたいと思えます。

（室戸ジオパーク推進協議会 地理専門員 中村有吾）

会 員 紹 介

日本ウミガメ協議会 室戸研究基地

黒潮が流れる室戸の海には魚類・鯨類・ウミガメ類と多種多様な海棲生物が生息しており、大型定置網などの漁業活動が活発に行われています。日本ウミガメ協議会室戸基地では地域の漁業者と協力し、漁業によって誤って捕獲されるウミガメ類を調査する活動を14年間行ってきました。その数はこれまで3400頭にも及んでいます。絶滅の危機に瀕しているウミガメ類の保全を考えた場合、その生態を知ることが必然ですが、室戸での調査を通じて貴重なデータベースの構築が可能となっています。また、当NPOではウミガメ保護活動を中心に、地元住民や漁業者と共に活動することによって地域の活性化も目指しています。定置網漁獲物調査や地元の小学校をはじめとした環境教育、捕獲されたウミガメの放流体験、イベントでの普及啓発活動、学術標本作成にも取り組んでいます。また、これまで細々と実施してきた海洋生物をはじめとする室戸地域の資料収集・展示や、実習生（学芸員実習含む）をクラス単位、ゼミ単位でも対応可能な受け入れ枠拡大なども準備中です。今後も継続的な活動を行うとともに、その経過と成果を広く発信し、地域の発展に寄与しながら地域住民との繋がりを強めていきたいと考えています。（NPO法人日本ウミガメ協議会室戸基地 平井紗綾）



海洋堂ホビー館四万十

海洋堂ホビー館四万十は、平成23（2011）年に四万十川中流域にある四万十町立ミュージアムとしてオープンしました。四万十町の中山間に建てられた当ミュージアムは廃校となった小学校を活用しており過疎化の進む小さな集落にひととき目を引くもののけたちのテーマポールが異彩を放っています。

「わざわざいこう へんぴなミュージアム」をキャッチコピーに、ついでとしては立ち寄り難い立地場所をPRしています。館内は、海洋堂の造形師たちにより精巧に作られた博物館オフィシャル造形物や現代アートの作品と認められたものも多数展示しています。



この度平成28（2016）年2月に常設展示場である体育館内のリニューアルを行い3月にオープンしました。開館当初、あらゆるジャンルのフィギュア作品を物量的にギュッと押し込め、館内全てが宝箱をひっくり返したような中でお客様自身に興味を引かれるものを見つけていただければというコンセプトから、リニューアル後は、海洋堂館長がたった一坪半のプラモデル店から創業し半世紀にかけて今日に至った過程と造形師の作品の数々をよりわかりやすく表現しました。

本年度は奥四万十博も開催され、ますます「行ってみたい」観光施設として位置づけられるよう取り組んでいきたいと考えています。（海洋堂ホビー館四万十 宗崎信一）





2015年 10大ニュース

去る平成27(2015)年は、日本の政治史・外交史において大きな変動があり、国民世論もその賛否を巡って各地で舌戦が交わされるという、かつてない激しいものとなりました。まさに歴史的ターニングポイントとなったこの1年、高知県内の各博物館施設でも数多くの発見や新展開が報じられました。

ここでは、『こうちミュージアムネットワーク通信』編集担当者が独自に選出いたしました記事を「10大ニュース」として紹介します。
(高知市立龍馬の生まれたまち記念館 森本琢磨)

「土佐藩主山内家墓所」の国史跡指定



高知市にある筆山の北面、鬱蒼たる雑木林の中には、土佐藩主山内一族の広大な墓域が広がり、優に100基を超える墓石が林立しています。この中、山内家本家筋の墓石35基が集中する約18300㎡の区域が、平成28(2016)年3月、国の史跡に指定されました(平成27年文化審議会より文部科学相に答申)。

高知県では11番目、大名家の墓所としては全国21番目の史跡指定となります。山内家のみならず、近世土佐の歴史や文化の一端を物語る貴重な文化遺産ですが、その価値とともに、文化財保護の観点からは早急な保全整備対策も必要です。
(公益財団法人土佐山内記念財団 渡部淳)

坂本龍馬記念館で新・再発見続々

龍馬生誕180年の平成27(2015)年は、新しい資料の確認が相次ぎました。

まずは「龍馬幼時佩用の刀」という脇差を展示公開。

これは北海道に渡った坂本一族の中のお一人が所蔵しています。昭和4(1929)年、東京青山会館で開催された「土佐勤王志士遺墨展覧会」での公開以降所在が分からなくなっていたものです。また、「龍馬は本当に剣豪か?」という疑問を払拭するように、江戸・北辰一刀流兵法免許状の確認が、坂本家6代当主・坂本弥太郎の控え書から確認できました。



(高知県立坂本龍馬記念館 前田由紀枝)

高知市民図書館本館閉館

市民図書館の本館(昭和42年建設は、市役所新庁舎の建設に伴い、平成27(2015)年12月27日に運営を終了しました。最終日の閉館セレモニーでは、長らく歌われてなかった「高知市民図書館の歌」(昭和34年作)を復活、岡田直樹(新図書館建設室)歌唱指導、徳平晶(特設文庫)伴奏により、職員全員で合唱し、本館に別れを告げました。

4月1日には、追手前小学校跡地西側に仮設図書館が開館し、新図書館等複合施設「オーテピア」完成までの日々を過します。

(高知市立市民図書館 依光桃子)



関勉さんから望遠鏡寄贈

平成27(2015)年2月、天文研究家の関勉さんから高知市に対し、世紀の大彗星として有名な「池谷・関彗星」(昭和40年発見)にまつわる貴重な資料が寄贈されました。

寄贈されたのは、池谷・関彗星を発見した自作の望遠鏡(コメットシーカー)や当時使っていた星図(恒星の位置図)、発見時の視野スケッチなどで、これらは建設中の新図書館等複合施設「オーテピア」内にできる「高知みらい科学館」で展示することになっています。



(高知市立市民図書館 新図書館建設室 岡田直樹)

長宗我部元親飛翔之像

平成27(2015)年5月3日「長宗我部元親飛翔之像」が盛親最後の八尾合戦から400年目に岡豊城跡にたちました。全国ほぼ3000人の方々の浄財で完成しました。



城跡を訪ね思い出となるシンボルをとって地域の人たちの声。岡豊城跡を、長宗我部氏をもっと知ってもらうため僕達に何かできないか、岡豊小学校児童たちの自主研究にも後押しされ建立は進みました。像が岡豊城跡に多くの人を呼び、長宗我部氏を考え土佐の歴史に浸り、地域や多くの方々とコミュニケーションに基づく活動が広がる媒体となるよう、積極的活用を希望いたします。

(長宗我部元親飛翔之像建立委員会 宅間一之)

竹林寺書院国重要文化財指定

規模の広壮さとともに高知城本丸御殿と通じる地方的な特色を良く残すとともに、周囲の庭園と一体となつて江戸時代後期の書院造りの粋を伝える四国地方では希少な書院建築として、この度当寺書院が国重要文化財の指定を受けました。



特に、建造物調査と同時期に行われた古文書・文献調査により、これまで確認に乏しかった建造年が文化13(1816)年と判明し、同書院の歴史的価値を裏付けるものとなりました。

(竹林寺住職 海老塚和秀)

『フクちゃん』単行本刊行



横山隆一記念まんが館では、平成27(2015)年2月、『横山隆一のフクちゃん365日+1』を刊行しました。

高知市名誉市民

第1号である横山隆一の代表作「フクちゃん」の単行本は絶版となっており、長らく手に取りにくい状況にありました。今回、フクちゃん誕生80年の記念年に先だし、改めてその魅力を伝えようと企画。四季折々の風景を描いた4コマまんが366点を収録しています。本体800円(税別)。高知市文化プラザかるぽーと、金高堂ほかで販売中です。

(横山隆一記念まんが館 奥田奈々美)

作家・宮尾登美子さん追悼展の開催

平成26(2014)年12月30日に宮尾登美子さんが亡くなられたのを受けて、高知県立文学館では、平成27(2015)年9月19日(土)～11月23日(月・祝)まで、「ありがとう。宮尾登美子さん～八十八年の生涯を偲んで～」展を開催しました。

高知県は、宮尾登美子さんご本人から、2度に渡りたくさんの資料を寄贈していただいております。宮尾さんへの感謝の気持ちとこれまでの業績を偲んで開催。多くの宮尾登美子ファンとともに宮尾さんの文学と人柄に触れる展覧会となりました。

(高知県立文学館 学芸課)



豊永郷民俗資料館オープン

多くの方々のご支援により民俗資料館が開館しました。心より感謝いたします。資料館の設計にあたっては豊永郷の民具の特徴を発揮することを柱にしました。展示物から建物を発想し設計士の先生が形にしてください素晴らしい職人の手により豊永郷民俗資料館が建築されました。「人と自然、道具と技術」をテーマとし主に子供に向けての展示を心がけています。高知県の84%は山間地域です。山の文化無くして土佐の文化を語ることはできません。また人・モノ・思想が行きかう中で文化が築かれたと考えるなら、豊永郷文化と関係する四国の多地域の多様な文化との連携を考え、「文化の道」の一拠点になればと願っています。



(豊永郷民俗資料館 釣井龍秀)

めずらしいキリンの鳴き声

平成27(2015)年8月24日の午後、アミメキリンの「イブキ」が鳴きました。キリンは若い個体が希に鳴くことがあり、当園では初めてのことです。その日はキリンの収容作業中に、イブキを寝室に1頭残していた時のことです。大人たちと離された寂しさからでしょうか？1分間の間に3回「モーウ」と鳴いている動画の撮影に成功しました。ホームページで公開すると、一気に有名なキリンになりました。今ではもう鳴くことはなくなりましたが、順調に成長して背の高さが3m以上になりました。この度、6月に広島市安佐動物公園へ嫁入りすることが決まり、寂しくなりませんが高知を離れても大活躍してくれることと思います。

(高知県のいち動物公園 大野真奈)



室戸市地域施設見学会

こうちミュージアムネットワークでは3月15日、「室戸市地域の施設見学会」を行いました。室戸市の自然と歴史に関する文化施設を訪問し、見聞を深めるのが目的です。当日は天候にも恵まれ、参加者一行は4施設を訪れました。

最初に向かったのは、「キラメッセ室戸」内にある「鯨館」です。この施設は、室戸市がクジラとともに歩んできた歴史を紹介しており、当日はボランティアの方が案内してくださいました。その中で、捕鯨の方法は3段階の変遷を辿ってきたこと、仕留めたクジラは皮や骨に至るまで余す所なく活用してきたこと等を学びました。また、解体作業の過程で胎児を発見した場合はその死骸を丁寧に葬るなど、同地の人々はクジラを単なる資源としてだけでなく、敬意と感謝をもって接していることもわかりました。

次に訪れたのは、室戸世界ジオパークセンターです。ここは、平成23(2011)年に世界ジオパークに認定された室戸の自然と人々の営みを紹介した施設です。分かりやすいパネル展示やスクリーン映像、岩石の表面を観察できる顕微鏡、QRコードで情報を取得する機器など、多方面から理解を深められる工夫が印象的でした。その後、日本ウミガメ協議会室戸基地を見学しました。この施設では室戸の海域に生息するウミガメ等の海洋生物を調査しており、貴重な資料が取



キラメッセ室戸 鯨館

集されていきます。研究員によると、同地ではウミガメが漁の過程で捕獲されることが多々あり、その度に現場へと赴いて調査をしているとのこと。参加者からは研究員に対して様々な質問が出ており、海洋生物に関する新たな知識を得ていました。

最後に、四国霊場26番札所・金剛頂寺を訪れました。同寺は、空海が密教の道場として大同2(807)年に創建したという歴史があります。訪問時は、仏教美術展「お大師さんの旅巡り」の開催期間中であり、国指定重要文化財の仏像をはじめ、仏具や絵画等の貴重な資料を見ることができました。

この見学会を通じ、普段なかなか行く機会の少ない室戸市で、文系理系双方の視点から多くのことを勉強しました。企画してくださいました皆様、現地でも対応してくださいました皆様、この場を借りて御礼を申し上げます。(高知市立龍馬の生まれたまち記念館

森本琢磨)

平成27年度の活動報告

【企画調整部会】

- ・総会 平成27年6月12日
- ・幹事会 平成28年5月24日

【研修企画部会】

- ・情報交換会(6月12日)

- ①「博物館と地域連携―土佐山内家宝物資料館の試み―」

- ②「2014日韓博物館フォーラム参加報告」

- ③「室戸世界ジオパークにおける活動について」

- ④「明治維新150年の取り組みについて」

- ・高知県文化推進課

- ・研修会(3月8日)

- ・「高知県の文化財防災のこれからを考える―文化財防災ネットワークの活動を中心に―」

- 講師：和田 浩(東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境保存室長)

- 高妻洋成(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)

- 会場：山内会館

- ・施設見学会(3月15日)

- 見学施設：「道の駅キラメッセ室戸鯨館」「室戸世界ジオパークセンター」「日本ウミガメ協議会室戸基地」「金剛頂寺」

【教育普及部会】

- ・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2015」作成

- ・ホームページの更新

- ・高知市広報「あかるいまち」コラム「歴史万華鏡」リレー連載

- ・【会報誌編集担当者会】

- ・会報誌14号編集

- ・【あり方検討委員会】

- ・第1回 平成28年3月4日

- ・【新入会員】(平成27年5月～平成28年4月)

- ・中土佐町立美術館

時の話題

周年事業



高知市立自由民権記念館は平成2(1990)年4月1日開館ですので、平成27(2015)年度は25周年の年でした。

記念事業の中には、友の会、市民の実行委員会、指定管理者との共催事業として開催できたものもありました。

当館の場合、10周年の時は盛大に事業を展開したのですが、20周年はできていなかったもので、25周年事業に取り組むこととしました。

財政局との交渉では、「30周年でいいのでは?」とか「次は50周年ですね」と言われ「いやいや30周年も大事、明治維新150年もあるぜよ」というやりとりもありました。

周年事業は、位置づけもわかりやすく、比較的予算もつく要素があると思われまます。

こうちミュージアムネットワークでも加盟組織の周年情報を共有して、可能なところで事業に協力することで、連携を進展させることができるのではないかと考えるところです。

(高知市立自由民権記念館 筒井秀一)

「マリメッコ展」 を見学して

会 展 レ ポ ー ト



会場風景

ヴォ（泉）といったテキスタイルが展示されています。そして「マリメッコの歩み」として創業者アルミ・ラティアや、代表的なデザイナーたちの作品、女性の新しい生き方を「ライフスタイル」として提案し、国際的な評価を得るまでのマリメッコ社のエピソードが紹介されています。数々のデザイナーの生い立ちやマリメッコ社の経営理念、マリメッコが人々をどのように魅了してきたのが紹介されています。

第二会場では「デザイナーの芸術」と題し、代表的デザイナーを紹介しています。マリメッコはテキスタイルとデザインされた服にそれぞれ名前がつけられています。マリメッコ初の正社員デザイナー、ヴォッコ・ヌルメスニエミの「服のためにプリント・ファブリックを裁断する際、図案を切り離してモチーフを壊してはならない」という言葉から、作り手に敬意を持った物作りへの姿勢がうかがえます。この部屋ではテキスタイル図案のためのスケッチや下絵の水彩画、カラーサンプルなど、デザイナーがこの世に一つのデザインを生み出す創作の息吹を感じる資料が見られます。

この展覧会の成功は、ただ北欧ブームだったのではなく、多彩な関連企画、準備段階からSNSによるこまめな情報発信をほぼ毎日行うなど、ご担当者さまの丁寧な仕事ぶりや熱意によるものだと感じています。

第一会場の冒頭にはマリメッコを代表するウニッコ（ケシの花）、カイ

（高知県立文学館 谷岡真衣）

窓 の 図 書

「東西！東西！さあて、お立ち合い！」軽やかなあいさつ口上とともに始まる本書『もっと博物館が好きっ！ みんなと歩む学芸員』（教育出版センター）には、四国四県の美術館・博物館の学芸員による日常業務からの発見や学び、地域との関わりが、それぞれの思いのもと綴られている。

これを編集した四国ミュージアム研究会では、平成17（2005）年の結成以来、各県持ち回りで年に一回の研究会等を行う等、各県の学芸員が情報や問題意識の共有を行っている。本書は平成19（2007）年に刊行された、『博物館が好きっ！—学芸員が伝えたいこと—』の続編として、また研究会結成10周年を記念して企画されたものである。前回と比べると執筆者の数も、本としてのボリュームもグンと増え、いかに来場者数を増加・維持するか、来館者に有意義な展示をするか、効果的な広報を行うか、地域とのつながりを構築して行くかなど、悲喜こもごものあれこれが、赤裸々に述べられ学芸員として大いに共感する。



『もっと博物館が好きっ！みんなと歩む学芸員』
四国ミュージアム研究会編 2016年
教育出版センター刊 2,000円＋税

もっと博物館が好きっ！ みんなと歩む学芸員

と関わることも多い。本書で印象的だったのは伊方町町見郷土館が、地域住民のボランティアから成る「佐田岬みつけ隊」とともに行う郷土資料の調査活動である。地域住民に郷土を深く理解し、楽しんでもらうというコンセプトのもと、継続している活動には、地域におけるミュージアムのひとつのあり方が現れていると思う。これ以外にも印象的な各館の取り組みは多いが、誌面の都合上すべてを紹介できないのが残念である。

内容は「調べる・みつける」「守る・遺す」「伝える・見せる」「結ぶ・広げる」の四つのセクションに分けられており、あらためて学芸員の職種の多様さや、館ごとの取り組みや方針が个性的であることに気づく。これからの業務に行き詰まったときや少し何かのヒントを得たいときに手に取ると、心の栄養剤にもなりそうな本書。読了後、今後の学芸員人生のなかで、自分も何かこのページに付け加えられるような研鑽を積みたかった。

（高知県立美術館・茂木恵美子）

名 称	〒	住 所	電 話	FAX	HP	休 ※は年末年始等特別休館日あり
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月 (祝日開館) ※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月 (祝日開館) ※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝 ※
絵山蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
大方あかつき館 (上林暁文学館)	789-1931	幡多郡黒潮町入野 6931-3	0880-43-2110	0880-43-0222	○	木祝・月末金 ※
越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
海洋堂かつば館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 685	0880-29-3678	0880-29-3679	○	火 (祝日の場合は翌日)
海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355	0880-29-3356	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザハ王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2 高知県立美術館内	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝 ※
高知県文化推進課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝 ※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12月第3木
高知県立高知城歴史博物館	780-0842	高知市追手筋 2-7-5	088-873-0406	088-873-0406	○	2017年3月開館
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	2017年4月から1年間閉館予定
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 2-22	088-821-7129	088-821-7130	○	日祝・第1水 ※
高知県立図書館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-10	088-872-6307	088-872-6479	○	月祝・月末金 ※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土日祝 (講座等開催日開館) ※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぼーと 8F	088-821-9215	088-821-9217	○	日祝 ※
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・20日 (詳細はHP参照) ※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市棧橋通 4 丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
高知城	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市立市民図書館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-7	088-823-9451	088-823-9352	○	月祝・20日 ※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市棧橋通 4 丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3306	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2 丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	○	土日祝 (第4日曜は開館) ※
古溪城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込、1/1~1/8・旧曆3/21開館
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-20-9009	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新莊公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝 ※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村字土居山 2356	0880-35-4096	0880-35-4096	○	※
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂市町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝 ※
定福寺土佐豊永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝 ※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
須崎町立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝 ※
創造広場アクトランド	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	無休
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001	0889-55-3555	○	火祝・第4金 ※
津野町立図書館虎太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石 2870	0889-62-3555	0889-62-3555	○	火祝・第4金 ※
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日 (10~6月)・月 (7~9月)
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	781-5103	高知市大津乙 472-1-101	080-6721-3074		○	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝・月末金 ※
豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0305	0887-74-0302	×	※
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
中土佐町立美術館	789-1301	高岡郡中土佐町久礼 6584-1	0889-52-4444	0889-52-2343	○	月 (祝日の場合は翌日)
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1 丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休
日本ウミガメ協議会 室戸研究基地	781-7101	室戸市室戸岬町 701	0887-22-1685	0887-22-1685	○	不定休
認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木 ※
平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
室戸ジオパーク推進協議会	781-7101	室戸市室戸岬町 1810-2 室戸世界ジオパークセンター内	0887-22-5161	0887-23-1618	○	無休
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぼーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月 (祝日開館) ※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
藁工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫	088-879-6800	088-879-6800	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
わんぱくこうちアニマルランド	780-8010	高知市棧橋通 6 丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水 (祝日の場合は翌日) ※

こうちミュージアムネットワーク通信 第14号 平成28年5月29日発行

■編集 こうちミュージアムネットワーク会報誌編集担当者会
 (高知県立美術館、高知県立文学館、高知県立歴史民俗資料館、高知市立市民図書館、高知市立自由民権記念館、高知市立龍馬の生まれたまち記念館、(公財)土佐山内記念財団、横山隆一記念まんが館)
 ■事務局 (公財)土佐山内記念財団 ■電話 088-873-0406 ■http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum/network/konet_home.html